

## 受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

<b>平成17年度 文部科学大臣賞 受賞</b>	受賞者名
	<b>昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校</b>
	所在地
	<b>東京都世田谷区</b>
<b>1. 活動継続 あり</b>	
<b>(1) 3R活動</b>	
<p>授業中、清掃中、休憩時間それぞれに必要な照明だけつけ、「無駄な照明は消す」という良い習慣が受け継がれている。両面印刷・縮小印刷は可能な限り行い、印刷の残りは反古紙として活用して「紙の無駄遣いはしない」ことを徹底している。各教室には「紙ゴミ」の入れ物を置き、廊下には「紙類」「プラスチック」「缶ビン」「ペットボトル」「可燃物」専用の入れ物が設置され、<b>ゴミの分別を徹底している</b>。リサイクルできるものは、業者を通じて行っている。特に、ペットボトルのふたは、別途回収し、福祉活動に役立てている。</p>	
	
<b>(2) 環境の美化</b>	
<p>朋友班活動（縦割りの清掃グループ組織）で毎日 15 分間、校舎内外を 36 のグループで清掃している。</p>	
	
<b>(3) 環境教育</b>	
<p>① 朋友班活動の清掃活動により中高部の校舎だけではなく、こども園の園舎、キャンパス内の通路・植え込みなどを、生徒の手によって清掃している。コンポストを利用して、落ち葉や枯れてしまった花から堆肥を作り、花壇の肥料として活用している。</p>	
	

- ② 東京都の私学グループの1つである第8支部主催の世田谷公園清掃ボランティア活動を、他校の生徒とともに毎年行っている。40年以上にわたって、本校から数百名の生徒が積極的に参加している。



- ③ 平成16年度の環境教育モデル校指定による国からの交付で中高部2号館屋上に風力・太陽光発電の模型を設置した。科学室の水槽等の電気を補い、省エネを体験できるようになっている。平成18年に校舎の屋上に太陽光発電システムによるパネルを設置し、電力の消費状態を視覚でわかるボードが設置されている。



- ④ 中央委員会という生徒会活動の組織の中の保健部委員と厚生部委員が中心となって、地球環境保全に役立つ具体的な取り組みを、生徒の手によって実践している。平成18年11月には、「環境フォーラム」と題して全校の集いを開催し、「中高部の環境宣言」を行い、「もったいない活動のキャッチフレーズ」を作成し、活動を行った。

## 2. 活動の広がり あり

- 総務部委員を中心にユニクロの“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加し、世界の難民のために子供服の古着を集めて送る活動を行っている。難民高等弁務官事務所を通して、2年連続でウガンダ難民キャンプに子供服を送っている。“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに関しては、田園調布学園、本校の初等部、もみの木保育園太子堂と連携して行っている





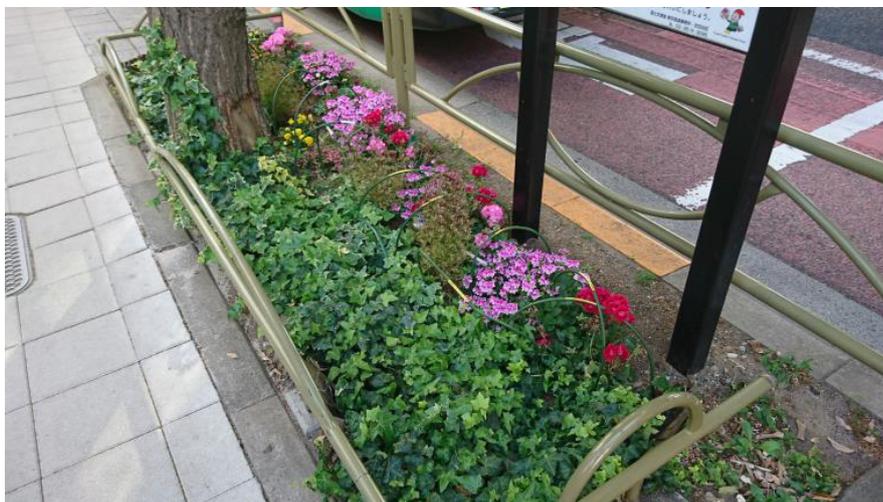
- 厚生部の取り組みの1つとして、通学路の美化活動を行っている。校門から最寄り駅（三軒茶屋）までの歩道の清掃を、朋友班のボランティア活動として位置づけて行い、回数や参加人数の拡大につなげている（下図左）。

また、ソフトコンタクトレンズの空ケースの回収アイシティ eco プロジェクトに参加している（リサイクルによる再資源化、空ケースの売却代金を日本アイバンク協会へ寄附、CO2の削減などが行われている）使用済みインクカートリッジの回収を通して海外で家事使用人として働く少女たちが読み書きを学ぶ授業を受けられるようなNPO活動に参加している（下図右）。



### 3. 活動の進化 あり

- 厚生部の取り組みとして本校から三軒茶屋までの植え込みに花を植えて、街の美化に努めている。



- 4、5年生が総合学習の一環でサービスラーニングとしてボランティア活動を通して環境問題についての課題意識を持ち、提言をして取り組んでいる。

4. 今後の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>● “届けよう、服のチカラ”プロジェクトに関しては提携できる学校や部署を増やし、世界の難民のために、より多くの子供服の古着を送って届けようと計画している。</li> <li>● ユネスコスクールとしてE S Dの実践を引き続き行い、今後もグローバルな視点を持って環境教育を実践していきたい。</li> </ul>
5. その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成24年10月にユネスコスクールに加盟</li> <li>● 平成26年3月に生徒会会長がユネスコのE S D国際交流プログラムにおいて、日本を代表して本校の環境教育の取り組みについて、国連ユネスコ本部（パリ）やドイツで発表した。</li> </ul>

## 【表彰概要】

項目	概要
受賞者名	昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校
所在地	東京都世田谷区
開始時期	2002年9月
活動の区分	リデュース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2002年9月から始めた学園あげでのISO14001認証取得を目指す活動の一環として、両面印刷や縮小印刷を、教育効果をおとさない範囲で可能な限り行い、紙使用料の削減を図ったところ、毎年のように前年比数%の削減を実現できている。</li> <li>・2003年1月に専任全教職員にPCを支給、学内LANを配備して、全学的にデータベースで連絡を取り合いペーパーレス化を図ったところ、教職員間の連絡に使用していた紙の使用料を従来に比しほぼ半減させることができた。</li> <li>・学寮などの食事は献立立案の段階から生徒の年齢に応じた摂取量を十分考慮して考案、調理している。無駄な残飯残菜を最小限に押さえるようにしている。</li> <li>・可燃ゴミを紙ゴミと紙ゴミ以外の可燃ゴミに分け、紙ゴミはトイレットペーパーの再生工場に100%搬出し、ゴミとしては廃棄しなくなった。</li> <li>・調理実習の生ゴミの廃棄量を最小限に徹底。</li> </ul>
開始時期	1947年
活動の区分	リユース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷の際に出る反故紙、印刷物の余りなどで、裏面の使用が可能なものは大ききで区分して1カ所にまとめて置き、裏面印刷またはメモ用紙に再利用している。</li> <li>・外部から郵送される郵便物の封筒または生徒の家庭から提出された封筒類を、可能な限り再利用している。</li> <li>・大学案内などのファイルを、教員の書類区分に再利用している。</li> <li>・包装紙や古新聞などを生徒も自由に使用できるように校内に設置場所を決めてまとめておき、絵の具やマジックなどを使用する際の下敷き用として、また、汚物廃棄時の目隠し用として再利用している。</li> <li>・コスタリカの学校との交流を深め、生徒の家庭で不要となった絵本を日本語教育に役立てるために発送し、大変喜ばれている。</li> <li>・他校で廃棄処分のイス等をもらい受け再利用している。</li> </ul>
開始時期	2002年9月
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き缶、ペットボトルの分別回収。</li> <li>・紙ゴミからトイレットペーパーを再生。</li> <li>・調理実習の生ゴミから肥料作り。</li> </ul>